

2011 年

9 月 23 日（金曜日） 喜びの共鳴や循環、増進こそが福祉のエキス - 京都北部聴覚障害者の暮らしを考える集い -

本日、「第 17 回京都北部聴覚障害者の暮らしを考える集い」が京都府聴覚障害者協会両丹聴覚障害者協会はじめ実行委員会の御主催により約 150 人にのぼる関係者、住民の皆さんが出席され盛大に開催されましたこと、心からお祝いを申し上げます。

東日本大震災から半年以上が経過しましたが、今なお大変多くの被災者の方々が想像を絶する困難に直面しておられ、国や地域をあげてできる限りのご支援を尽くしていく必要を強く思います。とりわけ、障害のある方にとっては想像をはるかに超える厳しい状況に置かれており、その実態を真剣に受け止めて重点的に支援の行動をしていくことが大切であることはもとより、今日ご講演いただいた嘉田所長（兵庫県立センター）のお話にあるように、そのためにも、日常の様々な場面で日頃から支え合いや助け合いの環境ができていくこと、そんな環境を常日頃から育てていくことが何より大切であると思えます。

このような環境を日頃から育てていくうえで、福祉の担い手である私たちが福祉の行動を心をこめてさせていただくことはもちろん基本なわけですが、大切なことは、反対に、相手の方から逆に多くのことを教えていただいたりしていることにかに気づき、このことに常にどれだけ感謝をもつことできるかということにあると思えます。それは例えば、相手方の渾身の勇気だったり、素直なキラッときらめくお心だったり、何か理屈抜きにいろんな輝きや元気の力をたくさんたくさんいただいています。このことにかに気づき、感謝し喜びとすることができるか。このような、障害のあるなしにかかわらない、福祉の出し手と受け手の相互の魂と魂のふれあい、喜びの共鳴や循環、増進こそが、本当の福祉のエキスであり、精髓でもあると思えます。

本市のまちづくり、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりが互い互いに大切にされ、一人ひとりに異なる貴重な個性が互い互いに尊重され、一人ひとりのかけがえのない命や人生が一番に尊ばれる、まちづくり、互いの魂と魂がふれあい、安らぎや喜びが共鳴、循環し増進するような、喜び広がる、喜びづくめのまちづくりを、皆の心を寄せ合って、進め築いていきたいと思っています。